

## 平成20年度第1回市民協働推進委員会 会議要録

日時：平成20年5月31日(土) 午前9時30分～午後4時15分

会場：佐倉市役所議会棟2階第4委員会室

### 出席委員

関谷委員長、高岡副委員長、木田川委員、長谷川委員、浅野委員、植木委員、  
松崎委員、渡辺委員、安蒜委員、竹内委員

### 欠席委員

鈴木アドバイザー、福川アドバイザー

### 事務局職員

伊東政策調整課長、坂上自治人権推進課長、片貝副主幹、江波戸副主幹、上野主査、  
小田主任主事、宮崎主任主事

### 傍聴

2名

## 1. 開会

事務局により開会

## 2. 委員長あいさつ

委員長：今年度第1回の委員会ということで、改めて今年もよろしくお願ひしたい。本日は、本委員会の役割の一つである市民協働事業の申請事業評価を中心に行う。本日のプレゼンテーションを聴いて最終的な評価をしたい。市民協働事業については、佐倉市に限らず他の自治体でも進められている。すぐにはいかないと思うが、佐倉市としてどう定着させていくか。本日も長丁場になると思うが、よろしくお願ひしたい。

## 3. 議事

### (1) 市民協働事業(市民提案型)プレゼンテーション及び質疑

委員長：審議に入る前の確認事項。1点目。事業の評価、意見調整を除いた部分は公開となる。2点目。議事は、市民提案型事業、まちづくり協議会事業について、各団体の説明10分、委員からの質疑10分、合計20分の時間の範囲内で進めさせていただきたい。3点目。市民提案型事業の採点方法については、事前に各委員に採点表が配付されているが、本日のプレゼンテーションの結果後の修正等を含めて採点表の記入をお願いしたい。採点表は、原則、各事業の発表毎に回収するものとした。昨年度の会議時において、委員間で申請事業の評価方法に修正を加え、評価方法の再確認を行った。採点表のコメント欄に事業の全体評価を記入し、0点がある場合にはその理由等の記入もお願いしたい。回収、集計作業は事務局で行う。それでは、会議次第に基づき議事を始めたい。本日の出席委員は10名で、

本会議は成立したことを確認したい。議事の進め方について質問、意見はあるか。無いようなので、それぞれの事業のプレゼンテーションに入りたい。

下総まわらし宿百観音保存会

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。パワーポイントを使用。

委員長：質疑に移る。

委員：バス使用料の使用目的は何か。

発表者：事業を行うにあたって、大勢の地域の方に認識、理解してもらう目的で先進地の施設を見学し、その必要性を理解していただくためである。

委員：施設への往復のバスではなく、先進地への見学のためということで了解した。

委員：出来るだけ多くの人に来てもらう必要があると思うが、駐車場は近くにあるのか。

発表者：施設の手前に地域の集会所の駐車場があり、臨時駐車場として無料で借りている。チェーンは外れるようになっている。

委員：ホームページに地図があれば、来訪者が、国道 51 号からどう入っていくのか分かるのではないか。

発表者：案内看板を田中酒造の看板の先に設置してある。

委員：遠方者のために、あらかじめホームページに地図を入れて、分かりやすくしておいた方がよい。

発表者：了解した。

委員：収入に寄付金が 156,520 円とあるが、前年度実績で 85,600 円だった。会員が減少傾向にあるが、156,520 円のほとんどが会員の寄付金となっている。来訪者からの寄付はどうか。全体の費用の構成ができなくなるのではないか。

発表者：来訪者からも少額ではあるが寄付をいただいている。

委員：階段の手すり等の安全施設の設置の 80,000 円の費用計上は、事業計画に載っていないが、この辺についての思いは。

発表者：会費以外の寄付金については、1 体 80,000 円の仏像について目安をつけている。それ以外に地域外の遠方の準会員からの寄付があり、一応予定している。

委員：全体的に余裕のある予算ではないと思うので。

発表者：地域内と地域外の先祖が寄進した準会員の方々の協賛を得ている。昨年度まで、19 体は公開していなかったが、それを暫時復元してきた。残り 2、3 体で 100%である。

委員：1 点目、来訪者を増やすための学校等へ啓発について。2 点目、名簿を見ると、シニア層の方が多いようだが、若い人を会員に集めようとしているのか。

発表者：現状は、各世帯の代表者の方が会員となっている。その他に老人クラブの賛同を得ている。若い方を暫時増やして、協力していただければと考えている。

委員：学校への啓発についてはどうか。

発表者：ポスター等を配布している。市の保育園が近くにあり、子ども達、父兄に月に1度位ずつ訪れていただいているようだ。

委員：他地区の方にも訪れてもらう案内や工夫も必要ではないか。

発表者：市の施設、公民館等に掲示できるポスターを用意している。

委員：そのように理解した。

委員：来訪者を集めるために自分達だけではなく、市内のガイド団体にこういう施設があるというようなPRや依頼をしてはどうか。

発表者：昨年度から教育委員会を通じて、ポスターを地域内の施設に掲示している。

委員：広告関係の消耗品でインクジェット代、用紙代等、その他にも印刷製本費で合計70,000円を計上しているが、実際にいただいたリーフレットを見ると、読みにくい感がある。先ほどの地図を入れる等、様々な世代に足を運んでいただくための工夫が必要である。プロの方に依頼してみてもどうか。

発表者：リーフレットは自分の知識の中で作成している。研修にも参加して見やすいものに工夫したい。去年の指摘により、内容を改訂した。

委員：川村美術館等との提携とあるが、具体的にはどのようなことか。

発表者：川村美術館の元の地主との関係があったので、これまでは深入りしてこなかったが、今後、教育委員会等と連携し、調整を図っていきたい。

委員長：昨年度からの引き続きの申請だが、協働事業で考えると、広報活動をどのように行っていくのか、会員からの寄付の部分をどうするか。市民協働の視点でいうと、他の団体と連携し、補完関係に立ちながら事業を進めていくことも今後は考えられる。そのような点を踏まえて、今後も事業を進めていただければ。以上で質疑を終了とする。

#### 佐倉舞謡会

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：課題把握方法として、小中学校の先生からの聞き取りとあるが、何校ぐらいからなのか。また、地域住民へのイベントの周知方法はどのように行っているのか。活動拠点が学校となっているが、学校での実施は、学校からの依頼なのか、自分達から学校へ働きかけているのか。また、教材はどのようなものを使っているのか教えていただきたい。

発表者：周知方法については、昨年度、印旛郡市の校長会で能楽教室に参加していただいているので、公平にこのような活動があることを理解していただいている。すでに実施した学校から聞いて、開催の依頼を受けるという場合もある。それは、年数を重ねていった上での事業だと思う。教材については、冊子を使い、舞台や楽器の紹介を行う。扇については、実際に触れて、開いてみる。中には壊してしまう場合もある。今の子供たちは扇も広げられないのが現状である。地域

住民への周知方法は、現在、不審者対策ということで、広く周知することが中々難しい状況もあるが、回覧を通じて行っている。また、保護者の方にもいらしていただいている。

委員：それは、学校に協力していただいているということか。

発表者：学校にお任せしている。回覧や学校だより等で周知していただいている。

委員：教育委員会からの回答があるが、2000年からの事業ということで、教育委員会との繋がりは既にできているのではないか。

発表者：協働事業としての申請は昨年度からである。公式に教育委員会への申請は今年から申請しようと思う。

委員：申請しようと思うということだが。

発表者：学務課長さんと話をさせていただいた。

委員：教育委員会からの回答が無いが、7月に和田小学校で能楽教室の予定があるが、学校の事業がタイトなことを考えると、既に支援を受けていないと間に合わないのではないか。もう少し、事業計画に具体性がほしい。昨年度、参加予定の半分しか参加者がいなかった事業もあったかと記憶している。それが原因で昨年度の実績があったのと思うので、その部分が今年も同じようだが。

発表者：実施人数を獲得するために児童数が多い学校に行くことも可能である。それを考えると、和田小学校は行きにくい学校になるが、今年は3校を予定しており、7月には間に合わないの、和田小学校は10月27日に決定した。佐倉東中学校と同じ月になるが、ご質問のとおり、各行事がタイトではあるが、学校の行事を優先させて10月に決定した。

委員：学校で開催ということで申請しているが、公益性を非常に重視するという視点で、昨年、学校でやるのはある意味偏っているのではないかと、ということでの一般公募を実施したが、周知が上手くなかったかもしれないので、参加者が少なかった。そうすると、毎年同じことをするのではなく、プログラムの工夫が必要である。能だけではなく、他の工夫も必要。学校で実施すると、それは主体的な参加でないかと思うが。

発表者：昨年度は、佐倉市の広報で周知した。中学校の生徒も部活動をしている中で、かなり関心はあると思うが、音楽ホール等は自分では行きづらい場所であるので、日々通っている学校を拠点に開催して、徐々に市内を回っていく形でやっている。今年は、和田小学校だけではないので、市民の方や委員も参加していただいでご判断いただければと思う。

委員：能の世界は難しい世界であるので、分かりやすい内容にすることも必要。実際に能面や扇と一緒に作ってみようとか、そこからアプローチする企画を入れると、とても分かりやすいのではないかと。きっかけ作りの考えも入れてみては。

発表者：ご意見を踏まえて、事業を展開していきたい。

委員：昨年実績で、参加者10名に対し、講師が5名だったことがあった。謝礼は一律でなかったようだが、参加者が少ない時は、延期や中止ということは考えら

れないのか。

発表者：今回は延期等が無いように、昨年の反省を踏まえて計画を立てた。

委員：和田小学校で10月27日に実施するということが、事業は、放課後なのか、土日なのか。生徒は全員が参加するのか。

発表者：事業は学校の授業中に開催し、全員が参加できる。

委員：参加予定人数の記載が無いが。

発表者：全員に門戸を広げているが、学校によっては、特定の学年を対象にする場合も考えられるので、予定を立てることはできない。

委員：教材は700冊とあるが。

発表者：想定される最大人数で予算は立てている。実施後、必要なければ返還する。

委員：扇は、扇子と同じ形態なのか。開き方も一緒なのか。

発表者：形状は同じ。開くともう少し大きく、かたい。子供たちには、扇が刀や杖になったりする様子を実際に見せてあげて、想像してもらう。

委員：扇は単年度しか使えないのか。

発表者：壊れた場合、修理代の方が高つく場合もある。扇に触らせないようにするという事になってしまう。

委員：今年は、楽器の使用料147,000が計上されているが、去年はそうしていたのか。

発表者：昨年度は使用しなかった。楽器の借用は難しいということ踏まえて、これだったら使用に耐えうるものを借りてこようということで、使用できそうな楽器を探してきた。

委員：支出で気になる部分として、申請額586,000円の中で、半分以上の315,000円が謝礼となっている。継続事業の点からすると、シビアに方策を考える必要がある。来年度もこういう形になるのであれば、もう少し固定費の使途について検討をいただきたい。

委員長：以上で質疑を終了する。

#### 上志津原まちづくり委員会

委員長：説明を願う。

発表：資料に基づき説明。パワーポイント使用。

委員長：質疑に移る。

委員：小学校区を中心とした地域まちづくり協議会については考慮したのか。また、将来的に町会の上に屋上屋を作るような弊害になるものはないか。市民の中で色々な行事、地域で色々な行事、市とタイアップして行うことについては、私は、町会が主体的に行うものではないかと思う。その点を検証されて立ち上げされたのか。費用の面も考慮すると、まちづくり協議会の方が有効なように感じるが。

発表者：地域まちづくり協議会については、市と色々相談しているが、私たちは、学校区でいうと南志津小学校になる。これを構成する町会は、中志津5,6,7丁目

が関わっており、南志津小学校の構成は、上志津原としては半分を担って、残り半分が中志津である。地域まちづくり協議会についても検討したが、中志津地区と一体となった事業運営は難しい。とりあえずは、小学校区の中で協議会というものも視野に入れて現状の事業を進めたい。次に、町会とまちづくり委員会との位置づけについては、疑問をいただくこともあるが、町会については、これまで数十年間 400、500 世帯で、その世帯数に見合った役員構成、事業を行ってきた。しかし、急激に数十戸単位で増えたことによって、これまで想定していなかった問題が出てきた結果、現行の町会機能では、住民要望に応えられなくなってきた。そこで、住民要望を補完する意味で、本委員会が立ち上がった。町会とは定期的に連携し、本委員会のメンバーに町会の役員を入れて、課題を共有し、協力関係を築きながら、上志津原という中で、仮想的にこれまでも地域まちづくり協議会と類する活動してきている。

委員：色々な行事をされているが、パソコン塾について伺いたい。ポータルサイトをひらいて見られるようにするというお話は、初心者には初歩的なことを教えるということだと思うが、具体的にはどのような方を想定しているのか。

発表者：町会の中にパソコンクラブがあり、構成要員の平均が 60 歳代である。若い世代だけではなく、ニーズは多分にあると思われる。パソコンクラブの参加者は、まだ町会の中でも少ない。今後、まちづくりやの子育て支援のポータルサイトを立ち上げていく中では、多くの人に見ていただく必要がある。対象者は手を挙げていただければどなたでも参加できる。人数制限もないが、想定としては 25 名から 50 名。町会の構成員全員に声掛けしていきたい。

委員：キャンプ村やもちつき大会等、子どもが参加する事業も多いが、30 代の方が 1 名、40 代の方が 1 名位と、子育て世代の方が少ないと思うが、そういう方を委員の中に入れてはどうか。食糧費は、300 円×400 名とあり、参加者数はそれぞれ、300 名と 50 名である。また、その参加者数に対し、備品購入のテント 3 張で足りるのか。パソコン塾のレンタルが 20 台とあるが、借りたパソコンにソフトをインストールするのか。さらに、キャンプ村等の指導者は、まちづくり支援隊の方がインストラクターなのか。どういう形で指導者として指導するのか。会議が延べ 12 回×30 名だが、役員は 14 名とあり、それはどういう会議か。

発表者：今回の事業で、キャンプ村やもちつき大会は、核家族世代が増え、お年寄りと触れ合う機会が少なくなっている中で、世代間交流を目的としたり、自ら調理し、自分達で片付けさせることが教育の一環ともなる。委員会は十数名で構成しているが、まちづくり支援隊の 50 名が、キャンプ村やもちつき大会等で各人の得意分野で参加してもらうので、このメンバーも含めた予算立てをしている。この十数名だけで会議や活動をするのではない。キャンプ村のテントは、委員会自身で調達していくことが前提となっているので、足りない分を計上した。足りないものをご購入させていただきたい。パソコンソフトについては、ポータルサイトに必要なソフトを購入する。レンタルのパソコンに取り込むものではない。ま

た、個々の事業毎に委員会を立ち上げていくので、12回×30名という予算になっている。

委員：講師謝礼は、どのような方へのものなのか。

発表者：町会のスタッフは整えていくが、専門的な部分については、専門知識を持っている方をお願いし、市内外から色々な方を講師でお願いする。

委員：キャンプに講師は必要か。

発表者：キャンプファイヤーやキャンプを安全に実施するための講師、経験者の方をお願いしたいと思う。例えば、体育指導員などを講師としてお願いする。

委員：私が携わっている手作りキャンプではそのようなことはない。また、想定していない課題が出てきたとは、どういう課題か。

発表者：上志津原は、当初は、固定的な世帯のみで推移してきたが、地域開発が始まり、通学路の確保等の安全策や保護策をどうするのか、場合によっては、事業者が工事時間帯によっては交通整理員を配置してもらう等をお願いしなければならない。工事の数も多いし、期間も長い。住民や学校側にしっかり説明し、周知してもらわなくてはならない。そういう場合に、これまでは実際に何をしなければいけないのかの経験がなかった。また、数十戸単位での開発があり、新住民を迎えるにあたって、行政とのやりとりや、新しい班を構成し、その中で班長を選出してもらうために何をしなければいけないかの経験もなかった。サポートできる仕組み作りが必要だという部分を含めて、これまで我々が経験してこなかったという点が多分に発生してきた。

委員：25名から50名での講習会で、パソコンの数は足りるのか。

発表者：レンタルは5台。自前でもある程度は協力していただく。

委員：保険料は、野外活動と任意団体の活動に対する参加者の保険、事業者スタッフに対する保険とあるが、参加者の事故を想定した参加者負担の保険の部分を考えているのかどうか伺いたい。

発表者：対象経費の保険料は、直接事業に関わる役員分である。参加者の部分については、対象外経費の中で、受益者負担で参加料の中で保険加入するという予算立てをしたい。

委員：保険料はキャンプ村の分が主か。

発表者：基本的に、キャンプやふれあい道路の伐採など、屋外で危険を伴う事業は全て対象としている。

委員：ふれあい道路は市のものか。市の方から、現状を損なわないようとの意見が出ているが。

発表者：現状でも幹線道路については、定期的に住民の自主的な清掃活動を行っている。ふれあい道路については、清掃だけでなく、樹木を植えてきれいな町並みにしよう等という部分については、市の関連部署と連携してやっていきたい。

委員：役員や班長は、毎年代わっているが、現在は、それが良い方向になっている。その方たちが中心となって人材確保ができた。上志津原町会は、南志津小

学校区であるが、これだけ開発があり、エリアが入り組んだりして、上志津小学校との絡みはないのか。後で問題はないか。

発表者：中心となる町会長は複数年で、班長は毎年度交代である。中心となる町会長は複数年とし、事業の継続性を保っていきたいと考える。班長は毎年代わるので、全体で町会長をサポートしていく。

委員：了解した。

委員：謝礼の件での提案だが、500世帯の家族で住民が何千人といるので、中には上志津原を拠点にしているボーイスカウトもいるのではないかと。救護関係は消防署、住民の中にはパソコンに詳しい人もいると思う。まずは、どういう人材がいるのかを把握してみるのもよいかと思ったが。

発表者：ご提案のとおり、住民自ら参加するという意味で、それぞれのカテゴリで参加を募って検討をしていきたいと考えている。

委員長：以上で質疑を終了とする。

#### 介護予防のためのコアラ・カルチャー教室

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：17教室で会員は何名くらいか。

発表者：170名程である。

委員：入会金は3,000円とあるが、月額だと幾ら位の参加費か。

発表者：入会金は保険料を含んでの1年間の金額である。2年目以降は更新手続きで2,000円を徴収している。教室に通うのは、1回500円の利用券という形態をとっている。

委員：その利用券で、どの教室にも参加できるのか。

発表者：共通利用券ということで、全ての教室に参加できる。

委員：人数だが、申請書では個人会員が23名、会費は30名から徴収するとあるが、170名はどこから出てきているのか。

発表者：教室に通う人は参加者としている。会員というのは、教室に対して賛同している方を会員としている。

委員：名簿には16名とある。

発表者：それは役員的人数である。その他に賛同していただいている方が、23名となっている。

委員：会場費が高いという印象だが、これまでは財源はどのように確保していたのか。

発表者：親団体である、介護予防のためのふれあいクラブ希望の輪という団体から足りない部分を補充していただいていた。足りない部分を助成していただいていた。

委員：昨年度は、希望の輪からの分離独立が不十分だったため、申請を辞退されているが、一年かけてそれをどのようにクリアしたのか。

発表者：今年度は金銭的にも完全に分離し、相互の行事のお手伝いをするという形に切り替えた。19年度までは資金援助をいただいていたが、今回は完全に独立したので申請させていただいた。

委員：市民協働事業からの助成がなくても、希望の輪からの助成はあるのか。

発表者：おそらく助成はない。

委員：参加費の90,000円は900,000円の誤りか。謝礼で1回5,000円とあるが、講師はどういう方か。街の中には講師をできるような方がたくさんいると思うが、そういう人を発掘することをしているのか。最初から謝礼を支払う前提なのか。

発表者：初めは、ボランティアでよいということでの講師の方もいたが、都合で出来ないということがあってはいけなし、長続きさせるためには、きちっとした形で謝礼をお支払いして講師を確保するために、去年から統一させている。

委員：参加費が500円という金額だが、参加者の評価は伺っているか。

発表者：障がい者や高齢者なので、会費の中にお茶菓子代を含めている。おしゃべりを楽しんでいただいている。材料費等がかかるので、500円は有償で負担をお願いしている。

委員：例えば500円を800円にしたりすると収支が合うと思うが。

発表者：金額を上げると、参加者の負担がかかる。参加人数が多い教室と少ない教室があるので、平均して500円という金額を設定している。1名でも通いたい人がいれば、教室を続けたいと考えている。当初はボランティア精神で100円だったが。

委員：障がいをお持ちの方は何名くらいか。

発表者：認知症や車いすの方等、70名位。

委員：介護要望系、障がい者系を含め、介護保険事業の届出、認可等は考えたか。

発表者：考えてはいるが、実質的に運営に手が回らないので先送りにしている。現在、スタッフとしてヘルパー2級以上の有資格者が全部携わっている。

委員：介護保険事業を申請すれば、要支援1の方については、月額20,000円いただける。それで経営が成り立つならよい、というのが許認可権者の回答であると思う。収入が確保されるし、これだけカルチャー教室をやりながら、会費を集めて、市民協働の助成を受けて成り立つというのは、担当課の評価はどうか気になる。介護保険課の回答がないので分からないが、厳しくなるのではないか。介護予防事業認定を受ける中で、その辺りをセットにする方法を考えてはどうか。

発表者：デイサービスや介護保険を使って他の施設を利用している人もいるが、ここに来るのが楽しいという人もいる。介護保険についても勉強不足で、手続きや運営方法についても、現在は教室の運営に手一杯である。スタッフも認定を受けて、登録できるのかという形についても検討しており、先送りにしている。

委員：これが成り立つのなら、介護事業所としてもこういうやり方もあるのかとい

う参考になる。

委員：会場までの足は、一人で来られているのか。

発表者：出来るだけ自立で来ていただいている。車いすの方も何名がいるが、ボランティアで同じ教室の方が乗せてきてくれるケースもある。将来的には送迎方法についても検討していきたい。

委員：障がい者の方は、主にどういう教室に参加されているのか。

発表者：歌声、折り紙、絵手紙、麻雀、フラダンス教室等。

委員：家にこもりがちな方を、外にお誘いするのは大変だと思うが、どのようにしていらっしゃるのか。

発表者：1つの例で、以前、痴ほうの家族の奥様が、家族の方がお世話になれないかという相談を受けた。実際に教室に通ってきたら楽しい、ということで、お礼の言葉をいただいた。また、奥様が歌声教室に参加していらっしゃる方で、ご家族の方も一緒に来るようになったケースもある。出来るだけ声を掛けて一度でもいいから来てみてほしいというところから始めている。

委員：参考までに、昨年度は希望の輪からの助成は、どのぐらいの金額か。

発表者：642,203円である。

委員：希望の輪は、昨年度外部からの助成を受けていたかと思うが、助成を受けている団体が、その下部組織に助成してもよいものなのかという点について。

発表者：希望の輪の会員の方の3分の1位がカルチャー教室通っているということで、助成していただいた。

委員：少人数でも開講することの事だか、それが良いものかどうか。統合して人数を増やすことも検討してみてもは。また、仲間作りや人集めをどうやって行っているのか。

発表者：地域新聞や広報に掲載していただいた。また、各公共機関や店舗に教室の日程表を掲載して、チラシも300から500部作成している。1人でも開講するというのは極端な話で、現状では、少ない教室でも5人以上が通っている。

委員：参加者は主に近辺の方が。

発表者：千葉、四街道、八千代、成田から10名位。遠いところは秩父の方から。

委員：今までもマージャンセット等はあったと思うが、新規に購入するのか。また、備品の預け料を払っているそうだが。こういう備品は、集会室に既に備品としてあるのではないか。

発表者：使用している集会室にあるポット等は、その町内の人を使うための備品である。外部からの使用者は使えない。古いものを皆さんからお借りしていたが、参加人数が増えたので、資産として買い、それを保管している人に預け料を支払う。3、4台も無料で保管していただくのは心苦しい。

委員：会場費が6,000円も掛かるとのことだが。1回6,000円なのか。

発表者：各教室の合計で6,000円である。1回500円。多人数時は1,000円。時間が重なると2,000円である。

委員：その場所でないといけないのか。市内のもう少し安い場所とか。

発表者：駅から近いところでないと、参加者が中々参加できなくなってしまう。そういうところは、お茶菓子を出すこともできないので。

委員長：質疑は以上で終了とする。

文化財ボランティアガイド佐倉

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：課題のところで、案内ガイドの依頼が輻輳しているということだが、問題点としてはどのようなことか。

発表者：基本的に3館を主体に活動が始まった。その他に、ニーズとしては、町並みの案内を入れた依頼がくる。我々がどう対応するかのを柔軟に持って、規模拡大するか、全体に取り入れるかということに繋がる。1、2ヶ所位、町並みの案内の依頼を受けたときにやはりガイドをするようになる。ニーズのパターンが、まず、町並みを主体にやっている人に投げかけられ、回りまわって文化課に来て、私の方に話が来る。それにどう対応するかということ。町並みを含めた案内をする人は、我々の会員である。私の方に話が来た場合には、担当の人に依頼して下駄を預ける。その場合、文化課の方に話を通して下さいということにしてある。最初から文化課に話が行き、私の方に話が来たら、命令なのでやらなくてはならないので、そういう形の方が考え方がはっきりする。

委員：以前、武家屋敷から城址公園まで案内していただいたが、私達は、案内していただくガイドは佐倉のことは何でも知っていると思ってしまう。ガイドはそういうものを求められていると思う。3館だけでなく、求められているものが大きくなっている。これまでの実績から、活動を拡大し、佐倉の観光を担っていくという点で、広範囲に活動していくような考えはあるか。

発表者：実は過渡期にあり、考えをまとめる時期にきている。今後、全体の町並みも含めてのニーズもあり、内部で年内に討議して、やるべき道を決定する時期に来ている。

委員：輻輳しているのは課題ではなく、利用する側からすれば、色々な方にひっかかった方がよいのではないか。これは、利用者のニーズを考えての課題ではなく、ガイド側の課題ということか。

発表者：初めに要求を受けた人と、私の方に話が来た時との葛藤が無いようにしなければならない。つまり、まず命令系統が文化課から依頼がきたら無条件に受けるとというのが我々のスタンスである。依頼を断ることは抵抗がある。そこをスムーズにしてもらいたい気持ちがある。

委員長：文化課からの命令という一方向的なことではなく、役割分担や情報共有についての検討をされるのもよいかと思う。市役所内の複数課での調整は、市とし

てやるべきことだが、ガイドと市との連携を詰めていただければ。

委員：今年は、日米修好通商条約締結の150周年ということで、また、6月には大河ドラマの篤姫の中の町並み紹介で、佐倉が紹介される。これによって佐倉市に訪れる人が増えるのではないかと。ガイド活動に期待するところも大きい。色々な要望が出てくるのが想定される。新たな方策、方向性を見出していただければ。佐倉は佐倉藩の歴史ということで、市民カレッジ等で学んだ方達が活動されている。今年はより一層良い機会となるので、是非よろしく願いしたい。

委員：昨年ガイド実績で、4,000人以上とあるが、団体数の実績はどのくらいか。

発表者：これが団体数である。3館の入場者数とは異なる。団体として4,000である。

委員：収入と支出の金額が異なっているが。

事務局：食糧費、対象外経費の内訳経費を訂正させていただいたためである。助成金額に影響はない部分の訂正になっている。

委員：ユニフォームについては、現在は何着用意されているのか。

発表者：15着である。新しい人を募集するため用意するものである。半額は自費負担いただいている。

委員：活動報告会の時に、課題として、駐車場や食事場所が無いとあったが、その点が申請書の内容に入っていないが。市への働きかけ等は。

発表者：申請書には載せなかった。以前、千葉から80名の団体があり、食事する場所を紹介した。その都度、来訪団体へ調整している。佐倉市としての問題点は多い。姫路は素晴らしい。年間百二十万人の観光客があり、ガイドは、35、6人。ガイドは年配者が多いので、実際には活動できない方もいる。かなりハードである。一人のガイドに30人が付いている。その様子に圧倒された。佐倉にも文化施設が至るところにあるので、いかに有効に活用するか。

委員：消耗品費のコピー費33,000円については計算誤りか。

発表者：訂正させていただく

委員：通信費の部分の調整部分は無い方がよい。

委員長：以上で質疑を終了とする。

## フクロウの会

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：希望する支援内容に、市内団体との交流に関するサポートとあるが、どういう団体とどういう目的なのか。

発表者：このあと発表される里山ガーディアンの方ともお話をさせていただいた。自分達の地域で精一杯な状況である。飯重の方等の団体とも少しずつ交流を深めていければ。また、地域の住民との連携を始めていければと思う。

委員：昨年の助成金約 18 万に対し、今年は約 30 万円である。活動内容は、昨年度と比較して今年度はほとんど変わっていない。申請金額が増えているが、どのくらい活動計画が増えているのか。

発表者：復田したところの水が足りないので、揚水機を購入する。また、農具の購入、燃料費で相当増えている。支援団体に協力していただき、事業量も備品も増やしたということでの申請になっている。

委員：備品と燃料の分は、事業の拡大に伴ってということか。

発表者：一度とことん荒れてしまった土地はそれほど変わらないが、荒れた土地に一度手を加えた土地は、手入れをしないと荒れ方が著しい。昨年は草刈を 1 回で済んだ場所は、今年は 3、4 回実施している。手を入れて自然を守るのは大変である。

委員：課題として、先ほどの説明で、多様なニーズがあるとのことだが、ニーズはどのように収集しているのか。

発表者：あくまでも地域で行おうと考えている。ニーズは、周辺地域も含めて、緑、水を保全してもらいたいというのは誰しも同じ。現在、直面している点として、自然にわき出てくる水が、逆に必要とされなくなっている部分もある。秋にはきれいな水があると大型機械が入れなくなってしまう。人や団体によって、考え方も違うため、環境保全の活動によって摩擦が生じることもある。ニーズが多様で、これからどのようにまとめていくか。

委員：手を入れるとますます手を入れないといけない。コストもそれなりに掛かる。今後、活動を続けていく上では助成がないと維持するのは難しいのか。

発表者：地域や人のためになるならば、地権者に対する支援制度や減免も必要。特に緑は、他人の物も自分のものにされてしまうこともある。農地、山林を所有している人の負担になってくる。共有財産として何らかの補填、公の支援があってもよいと思う。

委員長：他の例を見ると、企業、行政と進めて資金的な面を解決しているケースもある。行政からの多角的な支援の動きも広がっている。行政との連携も模索されてもよいかと思うが。

発表者：財源が必要になるので、今は、地元の自治会、土地改良区、活動への賛同企業からの支援をいただいているが、今後、市民協働事業が打ち切られても行っていくためにはどうするかを検討していかなければならない。

委員：コンサートの収入は期待できないのか。

発表者：出演者への報酬程度だけで、そこからの利益は想定してない。それを目的として定着させていくのは難しい。

委員：山を所有していると、地元の人が勝手に入ってしまうということもあり、きれいにすると、管理が難しいのでは。百合や蘭を栽培して販売し、収益を上げることも可能かと。

発表者：現会員の年齢構成では難しい。自然のものを栽培して販売することも出来

なくないが、現実問題として難しい。

委員：そう意味での他団体との連携も考えられるのではないか。

発表者：我々の目的を達成するために活動している。財源確保のための連携は無い。

委員長：以上で質疑を終了とする。

#### 地域文庫連絡会

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：チラシの作成代が計上されているが、これは玉手箱の作成代か。

発表者：チラシは、7月のイベントと秋の講演会、学習会を案内するものを募集段階で作成している。

委員：市民協働事業なので、協働の視点が大事。新たに市民協働として新規でやっている事業はあるか。

発表者：特に新規ということではない。長く活動しているが、広くなっていかないので、ここで市民協働ということ、もう一度伝えていきたい。

委員：広報での支援が必要ということだが、もう少し場を広げていかないと周知されない、学童や保育所に出ていくような形で、広報を兼ねて行うような活動を展開されてはいかがか。

発表者：毎月10日に金毘羅様を深大寺で行われているが、その中に我々も関わっていて、毎月10日は美術館の中でお話し会を開催している。金毘羅様をやらないう日も、場所を確保して開催したいと考えている。また、保育園や幼稚園に伝えていく予定でいる。

委員：子どもが触れあう場所が少ないということで、7月にイベントを行う。読書を通じて生きる力を育てることができることを多くの大人に知っていただくための事業という事業目標になると思うが、活動場所が少ないということでは、インパクトが少ない。50人で開催ということでは、かなり贅沢な講演会である。これを200人にするとかという配慮が必要。何に絞って活動していくかが曖昧である。

発表者：講師の確保は出来ていない。用意した100人分の会場を一杯にしたいという思いはある。100,000円の予算金額については、今後、折衝次第で変わってくることもある。金額部分については、直接、講師と折衝していない。最初から少ない金額で設定し、後でその金額では開催出来なくなるという懸念があったので。

委員：冊子を150部作られるということで、学校、幼稚園は独自にどのような図書を揃えるのかというのを持っているかと思うが、それとこの冊子とどのような関係にあるものなのか。

発表者：リストについてのことだと思うが、我々は、子育てしていく中で、読み継がれてきたもの、自分たちが、子育ての中で子供が喜んできた本というのは、必

ずしも売れてきた本ではなく、自分たちの経験の中で子どもに伝えたいものを、という視点で作成しているものである。

委員：図書館との差別化ということもあるが、市民協働ということで、活動が既に長いので、佐倉図書館との関係も密にあると思う。各図書館ではお話を、学校では、司書の方が図書の紹介活動を盛んに行っている。図書館では司書がいなくて大変だということを知っている。図書館の中で司書の代わりとして、読み聞かせを行ったりするはどうか。あちこちで活動すればいいという訳ではないと考えるが、協働としての工夫が欲しい。

発表者：図書館の整備が進んで、現在は3館ある。図書館の近くに住んでいる方は良いが、文庫の良さは子ども達が歩いて行けるところにある。居場所を含めて、学童保育所に場所を確保していただいた。今は、そこで学童保育として、今年度から高学年も対象になったので、週の中で曜日毎に当会と他のスタッフとが分担しているので、子ども達は1週間通してそこを使える。子どもが自然に入っている。スタッフがいる時は、地域にも開かれている。子育て支援課と何度も話し合いをして実現したもの。他の学童保育所は先に本がありきであるが。ただ、そこには人手が必要。人がいないと本が渡せない。広がりの中々目には見えない。

発表者：精一杯やっているが、今回は申請をした。佐倉市の図書館は3館が並立しており、図書館の柱がない。学校図書との交流は、これまでもなかった。図書館のあり方についても関心を持っていただきたい。手薄な部分も感じているので、独自の活動で広げていきたいと考えている。学校に声かけをして、図書館の在り方についても関心を持っていただいて、司書の方も減ってきており、大変さも見えるので、そういう辺りを広く伝えていきたい。勉強会も開いている。広く周知をして、イベントの3日間は、文庫の出前ということの一つのモデルという形にしてお話会も行う。近くに学校もあるので、声掛けをして、たくさん子ども達にきてもらいたい。

発表者：司書の資質が問われており、個人に頼るところも大きい。我々は、ボランティア団体なので、他市はどこも財政的に司書の数が少ない。事業に市民と一緒に取り組んでいけるところを育成していくのが、市の立場でやっているところである。中央が外されて、3館が並んで、同じ事業を競って行っている部分がある。これからは見直しされてくると思うが、他市がやっているものを当市がやらないのはもったいない。民間から声掛けして、実施しようという度量を持っていただきたいが、その部分も難しかった部分もある。そもそも30年前のこの会の設立自体が、市民協働であったと思う。公共図書館が充実しても、子どものところまでは行き届かないというのが実際の問題としてあり、これまで我々が活動してきた。居場所は幾つもほしい。せめて1つでもできればと思う。

委員：講演会についてだが、会場の問題もあり50名とあるが、佐倉市全体を考えているのであれば、少ないのではないか。学校を借りるとか。案内状の送付についてだが、これは会員の方への送付ということか。

発表者：会員ではない。学習会はそんなに大人数ではできない。50人位が一番よいものと考えている。

委員：講演会については、ポスター、チラシを学校に配付ということか。

委員：学習会は、以前は会員外の方は有料だったと思うが。

発表者：今は、全員から参加費を徴収している。

委員長：以上で質疑を終了とする。

### 里山ガーディアン

委員長：説明を願う。

発表者：資料に基づき説明。

委員長：質疑に移る。

委員：遊歩道を作っている目的は何か。

発表者：以前は生活道路だったところを復元している。市民の方が歩けない状態だったので、中に入れるようにする。また、活動の作業がしやすくなる。更に景観も良くなる。実際に入ってみると汚い、荒れている状態をきれいに整備すると、自然がきれいに見える。

委員：作業している里山全部を歩道整備しているのか。

発表者：全部ではない。所有者との関係もあるので。小竹城址を散歩している方も増えており、嬉しく思う。

委員：寄付金については有志からの寄付金とあるが、これは会員の方からか。

発表者：その通り。

委員：会費無しということなので、金額を持ち寄って活動しているということか。

発表者：基本的に会費をいただくものではないと考えているので。

委員：整備箇所は昨年度からのものも含めて4箇所か。

発表者：一度整備して終わりということではない。

委員：計画では、粉砕機の使用を増やしているが。

発表者：昨年は使用頻度が多くなかった。整備場所が増え、粉砕機の使用頻度とも今後は増えてくる。

委員：一度管理をすると、更に管理が必要になる。整備を広げていき、それを維持できるか。

発表者：そこだけではなく、色々な場所を整備したいが、中々進まない状態である。

取り組んでいる場所は大きくない。点々としたところを整備している。課題としては、今後人が増えてくれば、グループを作って常時整備できるようになる。

委員：財源が不安定である。地権者にある程度負担していただくのはどうか。

発表者：その方の善意で負担いただければ有難いが、最初からはお願いできない。

委員：どうにかしてもらえればよいが。

委員：健康の数値化というのはどのようなことか。また、課題したい解決の中に不法投棄とあるが、予算の中の経費の3,000円のゴミ袋にと関連があるのか。市の

環境保全課と連携も進めたいとのことだが、不法投棄であれば廃棄物対策課ということになるが、市民協働という視点で言えば、廃棄物対策課との調整は進めているのか。費用は当然掛かると思うが、費用計上がされていないが。

発表者：ごみ袋については、無償のビニール袋をいただいている。ごみの種類によっては使えないので、自分達で用意している。

委員：その部分についての説明があった方が分かりやすい。

発表者：健康の数値化は、専門の医師の方でないといけない。里山の散策前と散策後の値の変化についての数値化を図るもので、唾液の検査等を行う。質問形式で数値化するものもある。血圧の値はすぐに測れる。長年やっているとな値が正常に戻るということを知っている。

委員：消耗品費のコピー代の 1000 枚はどのようなものか。

発表者：公民館等にチラシを配付し、PR するため。

委員：グループ化し、競争心を高めるとのことだが、お互いに切磋琢磨することか。

発表者：その通り。我々の活動に感化されて、色々なところから同じような活動が増えてくれば、我々の存在意義も高まる。会の内部での競争という意味ではない。

委員：危険対策はされているのか。

発表者：保険に加入している。また、機械等の操作は、慣れている方に行っている。

委員：達成しようとしている成果の中で、活動人員の増員を 10 名以上とあるが、チラシ以外でどのように増員されるのか。

発表者：色々なメディアで取り上げていただき。こちらから団体にアクションできればよいが、なかなかできない。定年を迎えた方達の意識が高まれば、口コミで広まっていくのではないかと。最近では、おやじの料理学の方にも入っている。

委員：遊歩道を長くし、森林浴ができるような整備はどうか。

発表者：場所の形状や地権者の意向も違うし、徐々に繋げていければ夢が膨らんでいく。少しずつ活動していく中で、周囲への認知が深まればよいと思う。

委員：整備した箇所に団体名や連絡先の掲示してみるはどうか。そうすれば、増員が図られるかもしれない。

発表者：是非やってみたい。

委員：里山をきれいにするとゴミを捨てやすくなるので、人が来る。性善説だけでは成り立たない部分もあるので、その辺も難しい。

発表者：その部分も確かにあるが、段々にゴミの量は減ってくる。心ある人はゴミを捨てない。モラルの問題だが、以前と同じ量にはならない。そこがきれいになると周辺の汚いところが際立つので、周辺の地権者の方がきれいにしてもらえることといった場合もある。

委員：活動を続けていく中で、事業を広げていくだけの意義だけではなくて、他団

体との情報交換等を進めていければ。

発表者：他団体と連携、タイアップをして、各地域の社会福祉協議会ともやらせてもらっている。励まし合いながらやっている。

委員長：以上で質疑を終了とする。

委員長：各団体からのプレゼンテーションセッション、及び質疑は以上とする。評価表を記入していただき、事務局に提出していただきたい。

## 【休憩】

### (2) 地域まちづくり協議会事業について

委員長：説明を願う。

事務局：臼井ふるさとづくり協議会からの申請書に基づき、概要を説明。

委員長：質疑に移る。

委員：41 ページ、人材バンクについては、ボランティアセンター的な存在か。

事務局：各人の趣味や特技を含めて、協力できる方を登録するもの。今後、地域住民に対し、各事業の参加の呼びかけをしていきたい。

委員：人材バンクで交通費の 5,000 円とあるが、どのように使用するのか。

事務局：地域的には狭いのもかもしれないが、口コミや、人材バンクを実施しようとする、個人情報との関係等で収集が難しい場合もある。地域内を、自家用車を使用して移動する場合もある。その際の費用である。

委員：一般開放について伺いたい。花を咲かせてそれで終わりになるのか。

事務局：事業を有効にするためには、広く地域内の方や、チューリップ祭りに来てもらった方に摘んでもいいよということで、開放している。また、地域の方が、レンゲ畑で懇親会を開いたと聞いている。

委員：39 ページのグランドゴルフについて、参加人数で 100 人とあるが、これは選手が 100 名なのか、スタッフ等も含めてなのか。

事務局：関係する方も含めてと思われる。自治会対抗で行う予定。全体の人数と考えていただいてもよいかと。

委員：団体戦になるのか。

事務局：まだ詳細については、決定していないが、団体戦にしたほうが盛り上がるのではないかという声が上がっていると聞いている。

委員：地区社会福祉協議会との連携は図られているのか。前の話になるが、福祉部門として社会福祉協議会が位置づけられた方が良いとの意見もあったが。予算等に一緒にできればよいと思うが。

事務局：当協議会には、構成員として臼井地区の地区社会協議会も入っている。その中で、それぞれの活動は尊重しつつ活動の一つとして行う協議会であるので、内部の中で検討していくという形にしたい。

委員：予算的には。

事務局：予算的には、まだ福祉部門として盛り込んでいない。内部でこれから盛り込んでいければと思う。あくまでも、まちづくり協議会の福祉部門が入ってくれば助成金を使っていただけるようになるかと。

委員：36ページのクリーン作戦の講座会場使用料が3,000円とあるが、これは、クリーン作戦についての講座をやるということではないと思うが。

事務局：会議の場所をうすい荘でやっており、有料になる。その費用である。

委員：講座ではなく、会場使用料ということか。

事務局：その通りである。

委員長：広報活動について、臼井小学校地域での認知度はどうか。

委員：広報誌を年4回発行している。合計4ページのものを全戸に配付している。活動報告や参加者の拡充、これからの事業スケジュールを載せている。印象では、広報誌だけでは、十分でない。広報活動をどうするかという中で、人材バンクを活用していきたい。

事務局：広報誌や規約については、まちづくりの推進ということに活用させていただいており、地域内ということだけでなく、許可をいただきながら希望の地区でも配付させていただいている。

委員長：広報活動という意味では、地域内での認知度や参加意識の醸成していく点があるが、もう一つは、地域まちづくり協議会が他地区で準備されている中で、先駆的にモデルでやられてきた利点や問題点等を新しいところに発信していくことも重要なポイントになってくる。その点について何か検討は。

事務局：当協議会が3年度目ということで、内部で助成金の使い方、事業の進め方等、実際に取り組んできてからの問題も出てきている。市と話し合う場を設け、協議、検討していく。新たな取り組み団体に対し、いち早く情報を伝えて、これから設立する地域の参考にさせていただければと考えている。なお、白銀小学校区において、白銀小学校区地域まちづくり協議会が、5月24日に設立された。臼井ふるさとづくり協議会が運営していく中で、規約を参考にさせていただいた経緯もある。

委員：子ども防犯教室とむかし遊び体験教室、開催日は両方平日である。出来れば土日開催で、父兄の参加もどうかという意見があるが、この辺はご検討いただいたと思うが、年1度の事業なので、もう少し検討いただいてという思いがある。どちらか土日でもよかったかと。

事務局：その点については、協議会に伝えることとする。

委員：平日の午前中ということは、授業の一環としてか。

事務局：住民の方も先生となって教える。父兄も60名ぐらい入っている。

委員：授業参観も土曜にしている。その一環で行うこともできるかと。

事務局：その点について、開催日等の検討を伝えることとしたい。

委員長：質疑は以上とさせていただく。ここで一旦休憩をとり、次の第3議題については、非公開とさせていただく。

## 【休憩】

### (3) 市民協働事業(市民提案型)及び地域まちづくり協議会事業の評価・意見調整について

平成19年度第6回市民協働推進委員会(平成20年3月29日開催)において、市民協働事業及び地域まちづくり事業の選定にあたっては、「審査の段階」のみ、非公開ということで確認されました。

なお、委員会から出された結果は、以下のとおりです。

## 20年度 採択団体一覧

### 【市民提案型事業】

事業名	団体名
下総まわし宿百観音公園化事業	下総まわし宿百観音保存会
上志津原まちづくり事業	上志津原まちづくり委員会
文化・観光 ボランティアガイドの会	文化財ボランティアガイド佐倉
「自然環境再生」事業	フクロウの会
子どもと本をつなぐ事業	佐倉地域文庫連絡会
里山と人との健康増進	佐倉里山ガーディアン

### 【地域まちづくり事業】

事業名	団体名
地域課題に対応するための公共の利益に資する事業	臼井ふるさとづくり協議会

事務局：1点目、市民公益活動サポートセンターが、平成21年度から指定管理者制度に移行ということで準備を進めている。2点目、5月24日(土)に白銀小学校区まちづくり協議会の設立総会が中央公民館で行われ、2番目の街づくり協議会として発足した。3点目、次回の議題と日程について。議題については、白銀小学校区地域まちづくり協議会の事業についての説明、支援可否の審議をいただくようになるかと思う。市民協働事業講演会や実績報告会等についての意見を改めて意見をいただけたらと思う。日程は、6月21日(土)ということで、時間は調整の上、後日連絡を差し上げたい。

平成 20 年 6 月 30 日

委員長

関 谷 昇

副委員長

高 岡 良 子

議事録署名人

長 谷 川 大 美